

APU

立命館アジア太平洋大学

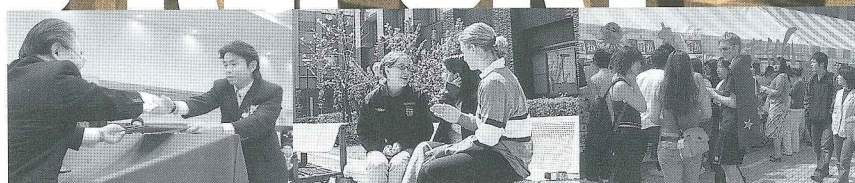


Ritsumeikan Asia Pacific University

# PROGRESS REPORT

立命館アジア太平洋大学 プログレス・レポート  
[2003年・夏号]

特集：APU一期生の進路・就職



Summer 2003

Vol. 20



# 巻 頭 言

駐日大韓民国特命全権大使

趙 世衡



「自由・平和・ヒューマニズム」、「国際相互理解」、「アジア太平洋の未来創造」を理念とし、アジア太平洋地域の平和的発展と共生を担う国際的人材を養成している立命館アジア太平洋大学が、今年4月の大学院開設等、順調な発展を遂げていることをアドバイザー・コミッティ・アンバサダーメンバーの一員として心より嬉しく存じます。

全世界的に、21世紀はアジア太平洋の時代であるということに異見はありません。我が韓国と日本が位置するアジア太平洋地域は、全世界の50%の人口が集まり、GDP総額は世界全体の30%に迫っていると、いったように大きな潜在力を持っている一方で、金融危機の危険性や地域紛争の不安といった多くの脆弱な要素を抱えているのも事実です。

このような弱点を克服してアジア太平洋地域が平和と繁栄を実現するためには、この地域の多様性を生かしつつも全地域をひとつにする新たな概念の政治・経済システムを開発することが求められます。

そうした意味においても、アジア太平洋地域の持続可能な発展に資するための新たな「アジア太平洋学」の構築に向けて研究を重ねている立命館アジア太平洋大学に対する期待は大きいと存じます。今後、同大学から輩出された素晴らしい人材が、アジア太平洋地域に民主的な統治制度と先進的な経済システムを根付かせていくことに大きく寄与すると信じてやみません。

今後、立命館アジア太平洋大学がアジア太平洋地域はもちろんのこと、世界の平和と繁栄に積極的に貢献する国際的人材の源として、更にご発展されますことを祈念致します。

住友商事株式会社 相談役

秋山 富一



僅か半世紀前、多くの日本人は飢えに苦しみ食糧を求めて戦後の焼け野原を徘徊していた。3度の食事を腹一杯食べられる日を夢見て猛烈に働いているうちに、日本の経済は高度成長期を迎え先進国を追い越し、世界第2位の経済大国となった。正に奇跡と言える急成長であったが、得意の絶頂でバブル経済が崩壊し、様々な混迷の中で反省を込めて将来を模索している。

「愚者は繰り返す、賢者は学ぶ」という。日本の奇跡的な復興と繁栄の原動力は何であったのだろうか。様々な要因が複雑に組み合わさった結果であろうが、中でも「アメリカの支援」と「日本の教育レベル」抜きには考えられないであろう。

アメリカは食糧のみならず産業復興の資金と技術を惜しみなく提供し、日本の留学生を積極的に迎えてくれた。アメリカの支援は冷戦構造下の国際政治力学による部分もあり、必ずしも善意ばかりではなかったろうが、日本にとっては僥倖であった。国を守ることでアメリカに任せて、経済一途に注力できたのである。

教育の行き届いた日本人の資質も奇跡の成長に大きく貢献した。150年前でさえ日本人の識字率は武士階級で100%、大都市の町人でも70%と推定されている。幕府は黒船騒動の5年後には留学生を海外に送る一方、語学や科学技術の習得のために外国人の先生を迎え入れている。明治政府が教育のために使ったお金は莫大だが、教育は国家百年の計である。19世紀もしくはもっと前から続くキャッチアップ志向の教育の成果が、戦後の正念場で試され真価が発揮されたのだと思う。

さて、私は一昨年に漸くAPUを訪れる機会に恵まれたが、別府湾を望む閑静な高台に広がるキャンパスは素晴らしく、こんな所で勉強出来る学生は本当に羨ましいと思った。APUには世界各国から学生が集まり、異国の言葉、習慣、考え方まで日常生活を通じて居ながらにして吸収できる。「国際関係」と「適切な教育」が奇跡の成長の原動力であるならば、APUは第二、第三の奇跡を実現する人材を輩出する最も可能性の高い環境である。

学生の母国と世界の繁栄のためにも、APUの発展を祈って止まない。

## アドバイザー・コミッティ 就任のごあいさつ

大分県知事

広瀬 勝貞



立命館アジア太平洋大学（APU）のアドバイザー・コミッティ委員就任に当たり、ごあいさつを申し上げます。

21世紀は「アジアの時代」と言われています。大分県では、アジアとの共生を目指し、2002年ワールドカップ日韓共催などを通じてアジア各地域との交流を積極的に展開しています。こうした中、開学4年目を迎えたAPUでは世界67か国・地域から3,500名を超える優秀な学生が集い、昨年10月の世界学生サミットの成功やグローバル化時代に活躍できる高度専門的人材を育成する大学院の開設など、名実ともに我が国初の本格的国際大学として大きく成長されていることを大変頼もしく思います。

また、若者の定住や国際交流、観光交流の促進などで本県の活性化に貢献していただくとともに、県内各地でのイベントや学習活動による留学生と県民との交流などで常に明るい話題を提供し、地域に愛される大学として確固たる地位を築かれています。

これもアドバイザー・コミッティの皆様の力強いご支援と、立命館の長田総長、川本理事長、APUの坂本学長をはじめとする関係者の新大学建設への高い志と尽きることのない熱意によるものです。地元大分県の知事として深く感謝申し上げます。

大分県では、建設段階の施設整備をはじめ、開学時における留学生受入れ対策などでAPUの開学を全面的に支援してまいりました。全学の体制が整った今年度からは、地域の資源である優秀な留学生に地域や企業でその能力を最大限に発揮していただくため、県内での就職の促進や円滑な受入れを図る「留学生特区構想」の推進や「大分県留学生人材情報バンク」（仮称）の設立に取り組んでいます。これによって、留学生と県民との関わりを国際交流、生活支援のレベルから相互理解に基づく地域貢献へと発展させたいと考えています。

そして、今後APUから巣立ち、世界各地で活躍する卒業生の皆様にとって、大分県が第二の故郷と呼ぶにふさわしい地域となるよう、「安心・活力・発展」をキーワードに21世紀の新しい大分県づくりに全力で取り組んでまいります。

立命館アジア太平洋大学が「アジア太平洋学」の確立をはじめ、アジア太平洋の未来創造に向けてさらなる発展を遂げられるようご期待申し上げますとともに、皆様のご健勝を祈念し、ごあいさつとします。



## 別府市長 浜田 博



アジア太平洋地域の各国元首や駐日大使、日本を代表する企業のトップの皆様で設立されておりますアドバイザリー・コミッティに委員として参加させていただくことは、大変名誉なことと存じます。

別府市は、学校法人立命館ならびに大分県、アドバイザリー・コミッティ委員の皆様のご協力のもと、世界的にも大変特色のある立命館アジア太平洋大学を誘致することが出来たことは、別府市の発展ならびに国際化に大きく貢献することとなりました。

また、別府市は、国際的な観光温泉文化学術都市として、ホスピタリティーあふれるまちづくりのため、2000年6月、日本の自治体としては初めて「国際交流都市」となることを宣言し、諸外国の観光客はもとより外国人留学生を積極的に受け入れるよう様々な取り組みを行っているところでございます。

現在、別府市に居住する留学生及び外国籍を持つ別府市民は、約3,000人います。

このため、市民一人ひとりが国際理解を深め、様々な国際交流活動に積極的に参画することを通じて、世界に開かれた地域社会を築いていくとともに、温泉を主体とした豊かな自然を最大限に活かした経済・文化交流を展開し、国際的なネットワークを広げ、地球社会の一員として貢献していくことが重要であると感じております。

また、市民、民間国際交流団体、教育機関、大学、研究機関、企業などと連携し、次代を担う人材を育成し、各産業・文化の活性化と地域の振興を図るとともに、世界に向けて別府市の情報を発信し、癒しの心を持った国際都市として発展することができるものと確信いたしています。

また、アジアから別府市への観光客も増加傾向にあり、今後、別府市の観光産業の発展を図るためには、海外と多面的な関わりを持った観光経営戦略が不可欠になっており、グローバル化に対応した技術・経営面での人材育成や、情報の収集・提供を図るとともに、大分県が推進している『一村・一品』運動などを中心とした相手国への技術移転など双方向の経済交流も必要となっております。

昨年11月には、アドバイザリー・コミッティ企業をはじめとした日本を代表する企業・団体から81社105名の皆様にお越しいただき、「ようこそ、APU」を開催し、多くの企業の皆様から高い評価をいただいたと伺っております。APUの学生が卒業後の進路としてアドバイザリー・コミッティ企業のご理解を頂き、21世紀のグローバル化に活躍できる高度で国際的な人材を育成していただきたいと思います。

APUが、アジア太平洋地域や世界の若者の教育に大きく貢献すると同時に、これからの日本の若者には、国境を越えたグローバルな視野でものを考え、行動することを大いに期待いたしております。

終わりに、多様な文化や習慣を持った若者がAPUのキャンパスで学び、鍛えられた21世紀の世界を担う人材として次々と世界へ羽ばたいていくものと心から期待いたしますとともに、アドバイザリー・コミッティの皆様におかれましては、立命館アジア太平洋大学が高等教育のフロンティアとして益々発展されますよう心からご祈念申し上げ、私の就任挨拶とさせていただきます。

# [特集] APU一期生の進路・就職



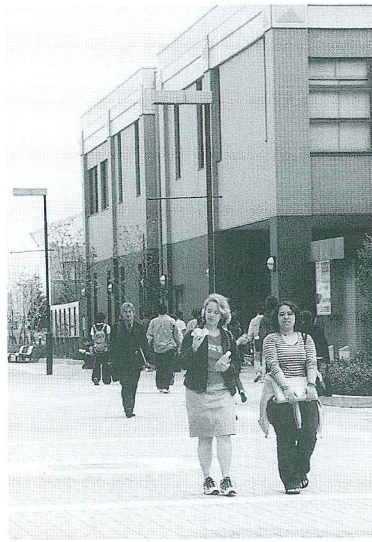
立命館アジア太平洋大学長  
坂本 和一

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

立命館アジア太平洋大学（APU）は、アドバイザー・コミッティの皆様方をはじめ、国内外の各界の広範な方々の多大なご支援により、本年度順調に完成年度を迎えることができました。また、この4月には待望の大学院2研究科（アジア太平洋研究科、経営管理研究科）をスタートさせることができました。

21世紀に入って日本の大学は、「国際競争力」の強化ということが課題となっております。しかし、残念ながら日本の大学の「国際信頼性」はそれほど高いとはいえません。このような状況を打破して、日本の大学の「国際信頼性」を飛躍させ、日本の大学の存在感を高めることは、日本の大学改革の直面する最大の課題であります。

この課題に挑むべく、2000年4月にAPUは開学しました。本学キャンパスでは、これまでに例をみない多文化、多国籍の教育・研究環境のもと、世界66カ国・地域から集まった意欲と志の高い国際学生達が、国内学生と共に勉学に励んでおります。学生も教員も半数が外国籍という多文化環境で、21世紀を担う若い英知が切磋琢磨する姿から、APUが日本における「国際競争力と信頼性の高い大学」づくりにささやか





## Special Report : Employment and Further Education



ながら貢献できていることと自負いたしております。

そして、いよいよこのようなAPUのキャンパスで勉学に励んだ第1期の学生達が、卒業生として2004年の春に本格的に社会に飛躍いたします。21世紀への夢と希望に満ち、それぞれの国・地域の発展に向けた課題や期待を担ってAPUで学んできた学生達です。彼らは、APUの国際環境を大いに活用し、勉学に励みつつ、他大学では決して体験できなかった大学生活を送ることができたと確信しています。

このような学生の成長も、ひとえにアドバイザー・コミッティの皆様方をはじめ多くの皆様方からのご支援と励ましの賜物でございます。改めて深くお礼と感謝を申し上げます。

学生達がどのような進路・就職を開拓していくかは、APUの今後の評価を左右する決定的に重要な課題であると考え、この間皆様の力をお借りしながら、大学一丸となって取り組んでまいりました。

未だ途中ではありますが、この度皆様はその状況をご報告申し上げたいと思い、本特集を準備いたしました。ご高覧いただき、忌憚のないご意見を賜ることができましたら幸いです。





## 就職概況報告

立命館アジア太平洋大学副学長  
(進路・就職担当)

西田 宗旦



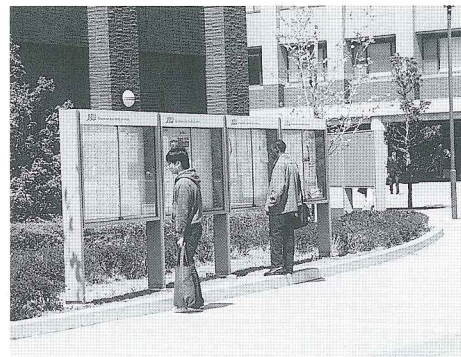
教職員と国際学生、国内学生が共に協力しながら「真の国際大学」を目指す本学は4年目を迎え着実に成長・発展を遂げ、今春には大学院も設置されました。アドバイザー・コミッティの皆様方をはじめ、国内外の多くの関係者のご指導、ご支援、ご協力を賜り、誠に有難うございます。

来春には第1期生の卒業生を輩出し、『就職元年』を迎えることになります。21世紀における国際社会に向けて、高度な語学運用能力・国際理解・国際人養成政策など、必要とされる知識とスキルを学生に身につけさせるため、本学は日本の高等教育機関、また国際大学として特徴ある教学システムを取り入れて参りました。本年は本学の質と成果が社会より問われる初めての重要な年でもあります。特に全学生の約半数を占める国際学生の就職先については社会の注目を浴びております。本学の特徴として、日本語・英語の2ヶ国語による授業の運営を実施しておりますので、英語基準の試験で入学した学生に、高い日本語能力をつけさせ、日本社会と日本人を理解してもらうのは本学の大きな挑戦でした。幸い独自の日本語教育プログラムにより、ビジネスレベルの日本語を習得し、日本のビジネス慣行を理解する学生が多く育ち、有力な日本企業への就職を希望する者が増えてまいりました。

今年の就職戦線も、大都市圏の大手企業を中心に一つ一つの山場を越えようとしておりますが、昨年と同様に新卒者の内定状況は「就職氷河期」という言葉に表されるようにまだまだ厳しい状況にあります。そのような状況の中で、APUでは開学直後から多様な







学生のニーズと、グローバル化されつつある社会が求める人材ニーズに応えるべく、様々な進路・就職政策、支援プログラムを実施してまいりました。入学直後から定期的に進路意識調査アンケートを実施し、学生の進路希望の把握に努め、目的意識を持った学生生活が送れるよう適宜指導を致しております。2001年に東京・大阪・福岡で実施いたしました「企業各位と大学・学生との懇談会」では、学生の成長ぶりを拝見いただき、2002年の「ようこそ、APUへ」ではアドバイザリー・コミッティの皆様方をはじめ80社以上の企業・団体の人事ご担当者様にご来学頂き、キャンパスでの学生生活をご覧頂きました。これら他大学では見られない取り組みは、APUの認知度と教育プログラムへのご理解を高めていただくと同時に、学生自身の就職に対する真剣な取り組みを促進するという大きな相乗効果を生んでおります。マンモス大学ではない分、学生と大学関係者の間において、顔と名前が一致するきめ細かい面談が出来、学生個別の志望を十分に考慮したうえで、適性のある進路へ一人ひとりを指導できるのは本学の最大の特徴であります。また、研究教育分野でも、より「実戦力」が要求される国際化時代に対応できる学生を養成すべく専門知識や語学能力向上のカリキュラムを重点的に組んでおり、就職試験でもその力を如何なく発揮しております。またお蔭様で、そのような学生を必要とされる企業・団体の皆様には引き続きキャンパスにお越しいただき、採用選考をしていただく機会も多くなってまいりました。また採用直結型の長期インターンシップの具体化など、あらたな動きも出てきております。

その結果我が国の「少子高齢化」社会を見据え、また一層のグローバル化の深化と相俟って、第1期生の内定状況も都市圏有力大学と遜色無いすばらしい結果が順調に出ております。100年を超える立命館学園の歴史のなかで、APUの歩みは皆様方のご支援を受けて着実に進んでおります。まだまだ歴史の浅い大学ではございますが、日本社会やいかなる国際舞台でも実戦的に通用する人材を輩出させるために、教職員一同全力で努力してまいります。引き続き皆様のご教示・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。



## 内定学生の声

APM 4回生

(韓国)

HYOUN Da In

内定先 日産自動車株式会社



実は、車の免許を持っていませんし、日産の採用試験を受けるまで、自動車のことをあまり詳しく知りませんでした。日産との出会いは、偶然ともいえるのですが、今は必然の出会いだったと思います。日産では職種別採用を行うので、採用面接もその部署の方が行います。面接官の方と話をしていく中で、「この人の下で働きたい」と強く思うようになりました。

面接では、私は「日本との架け橋だけに終わりたい」と伝えました。企業のパイプ役ではなく、自ら活躍の場を広げる仕事をしていきたいと思ったのです。日産での面接を続ける中で、この気持ちを口にできる社風を感じました。と同時に、この気持ちを伝えなくては、本当に自分のことを分かってもらったと思えない、と考えました。

自分の価値観を十分に理解していただいた上で、採用されたことは私の自信につながっています。「自分を理解し、認めてもらうためには、発言しなければならない」という姿勢は、APUのマルチ・カルチャルな環境の中で身についたと感じます。

このような私も、最初は面接で全くしゃべることができず、幾度となくもどかしい思いをしました。しかし、面接を受けていくうちに徐々に成長したように思います。面接による実践だけではありません。キャリア・オフィスや友人のサポートがあったからだと思います。最初からパーフェクトにできる人はいません。しかし、すべては挑戦してみることから始まると思います。

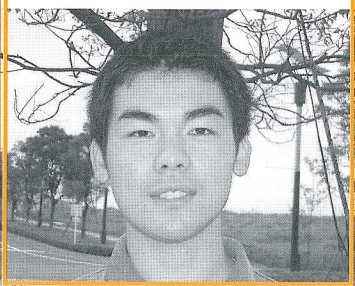
これからは、最初の一歩を踏み出すことの大切さを、APUの後輩達に伝えていきたいと思います。

APM 4回生

(日本)

井上 大輔

内々定先 富士ゼロックス株式会社



富士ゼロックス製品から利益を上げるだけでなく、そこから新たな提案をしていくことが自分の役割だと思っています。「新たな価値を自ら創造していく」姿勢は、APUで学生生活を送る中で、必要だと感じたものです。就職活動で、その思いを再認識しました。

ただ、就職面接では壁を感じたこともあります。就職活動の当初は、APUのアピールをしていたのです。面接試験で、APUがいかに国際色豊かで、すばらしい大学かを答えていました。しかし、それは大学のアピールであって、自分のアピールではないことに気づきました。APUがどうかではなく、APUで自分が何を経験し、会社にどれだけの貢献ができる人間か、具体的に伝える必要があることに気づいたのです。これに気付いたことが、就職活動の大きな転機になりました。

私は、APU一期生として、仲間を増やすためにも「協調性」を大切にしてきました。しかし、就職活動は自分以外の人との競争とも言えます。それまで、他大学の学生と競う経験がほとんどありませんでしたので、厳しさを感じることもありました。しかし、その経験も自分の力になったと思います。

富士ゼロックスでは、同期トップの成績を上げる営業マンを目指します。





APM 4回生  
(中国)

**ZHANG Lin He**

内定先 日本貿易振興会 (JETRO)



2回生の秋セメスターに、立命館大学との交換留学を経験したことが、学生生活の大きな転機になったと思います。交換留学では「人と巡り会うこと」の大切さを学んだとともに、APUを外から眺めるきっかけになりました。そして、改めてAPUを好きになりました。

APUの環境は、気づかなければ無難に学生生活を送ることも出来ます。しかし、この環境を最大限に生かそうと思えば、何にでもチャレンジできる要素があります。私の場合、普段の生活を通じて、多くの国際・国内学生の価値観、考え方に触れたことから、「相手を受け入れる姿勢」を学んだと思います。

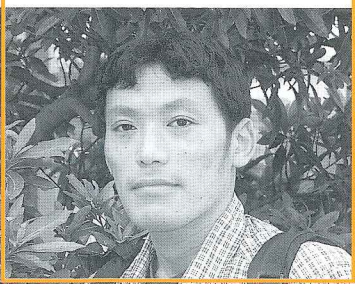
企業研究を重ねる中で、APUで学んだ異文化理解と、マネジメント学の両方を生かすことが出来る、日本貿易振興会の仕事に興味を持ちました。日本貿易振興会では、外国企業誘致支援事業や産業交流支援事業といった、日本と諸外国が相互に発展できる取り組みをしています。与えるだけではなく、日本も発展できる事業内容に共感しました。

今後は、APUで学んだことを「卒業論文」として形に残すとともに、後輩達の就職支援ができればと思っています。

APS 4回生  
(日本)

**笠松 裕史**

内々定先 日本放送協会 (NHK)



就職面接で、質問の内容に合わせた体験談を引き出せるほど、APUの学生生活は多くのことを経験し、それぞれが充実したものでした。今、振り返ると、一つひとつの体験は決して別個のものではなく、つながりをもったものだったと思います。

APUの1期生として、全てを「ゼロ」から始めたことが、自分の出発点でした。先輩がいない状態でサークルのAPUステーション(放送活動・メディア研究)を立ち上げました。APUステーションをよりよいものにし、かつ興味のある放送業界を知ろうと、インターンシップは福岡のFM局や大分のケーブルテレビを体験しました。

また、夏休みは授業で習ったことを実際に目にしたいと、各国を旅しました。東南アジアはベトナムとラオス以外はすべて回り、独立前の東ティモールにも行きました。自分の興味関心を引き出してくれるのが、授業でした。授業で行うプレゼンテーションでは、一生懸命調べをし、ベストの状態プレゼンテーションに臨み、充実感を味わいました。高校時代には想像がつかなかったことですが、成績優秀者として表彰されたこともありました。APUでは、それまでには感じなかった、「勉強の楽しさ」を感じることができたのです。

これらの体験以上に、就職の面接で生かすことができたのは、議論の中で自分の意見をきちんと伝えるということです。国際学生との生活の中で、自分の意見を伝えないことには認められないこと、そして議論の中で、相手の話をまとめて妥協点に持っていくことの大切さを感じました。

これからは、サークルのOB会を作るとともに、これからAPUに入学する学生達が、心おきなく学生生活を送ることができる、環境作りをしていきたいと思っています。

APS 4回生  
(インド)

CHOWDHURY, Shradha

内定先 三洋電機株式会社



キャリア・オフィスの紹介で、三洋電機のインターンシップを経験しましたが、それが三洋電機との出会いになりました。三洋電機のインターンシップでは、最も本格的・実践的な仕事を体験しました。人事部の仕事に関わったり、戦略部でインドのビジネスプランを提案したりと、本当の意味で三洋電機の仕事に任されている実感がありました。

特に、社会経済生産性本部で、10分間のプレゼンテーションをさせて頂いたことは、貴重な経験になりました。APUで学んだ情報収集・プレゼンテーションの方法などを生かすことが出来たと感じます。また、一方で、プレゼンテーションの効果的な方法を三洋電機の方々に教えて頂いたり、APUでは得られなかった情報を教えて頂くことも多々ありました。

また、世界学生サミットの事務局の中心を担う経験をしたこと、そしてキャリア・オフィスの支援があったことが就職活動では大きな力となりました。

三洋電機では、人事部で働くことになります。今後、卒業までに人事に関する書籍を読むことで、三洋電機の即戦力となり得る人材でありたいと思います。

APM 4回生  
(中国)

YIN Hai Han

内定先 株式会社川島織物



もともと日本の伝統的な文化が好きでしたし、川島織物の、身装・美術工芸事業に止まらず、インテリア事業や自動車用シートなどの内装材も手がけるなど、多岐に渡る事業戦略に共感しました。

私の故郷、揚州は鑑真和尚の出身地として有名で、日本からの観光客も多かったため、日本には興味を持っていました。実際に、日本で生活をするようになると、日本人の優しさに触れる機会が何度もあり、それまでとは違う、より身近な感情を抱くようになったのです。

ただし、中国では、必ずしもそのような人ばかりではありません。日本企業が、中国あるいは諸外国で経済活動をしていく中では、いかに消費者の興味をひき、多くの人に受け入れさせることができるか、「考える」ことが必要になってくると思います。

私は就職活動を通じて、自分は会社で何が出来るかを考え、面接で自分の思いを明確に伝えるようにしました。

川島織物は中国にも生産拠点があります。中国でのビジネス展開に興味がある私は、現在勉強しているマーケティングの知識を生かしながら、自分のアイデア・考えで勝負が出来る環境を生かして仕事をしていきたいと考えています。



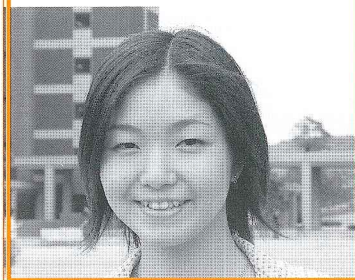


APM 4回生

(日本)

**滋野 有希子**

入社採用試験合格 九州電力株式会社



毎日の生活に関わる企業で働きたいという思いがありました。特に電力会社は、幼い頃から「電気の不思議」を感じていましたので、大変興味がありました。2月に行われた立命館大学の「ふれあいセミナー」で、多くの企業を知り、そこで就職活動の路線を考えるきっかけを得たと思います。

九州電力の面接試験では、「とにかく1番」を心掛けました。それは、面接などで何かコメントを求められる場面があれば、誰よりも先に意見を述べたことです。面接という短い時間で、自分をアピールするには、何事にも1番が目立つと考えました。それは、APUで、自分の意見をきちんと述べる人が周りに多々いたことが、大きな影響を与えたと思います。

また、一方で不明な点は、発言者に積極的に聞くことも心がけました。

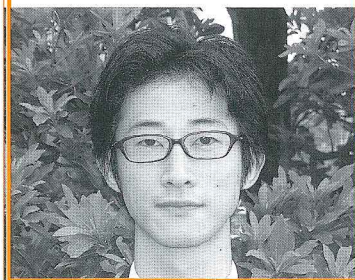
就職活動の中では、壁に当たることもままありましたが、キャリア・オフィスのスタッフ、そしてインターンシップ先企業の方々の言葉を自分で昇華し、プラス思考に持っていたことは、就職活動の大きな収穫だと感じています。

APM 4回生

(日本)

**猿渡 崇人**

内定先 アクセンチュア株式会社



2002年秋の世界学生サミットを経験出来たことが、大きな転機でした。実行委員長として、サミットが成功するための施策を講じ、理想とする方向にもっていく楽しさを味わいました。この経験を通して、問題解決に従事し、「あるべき姿」と現状とのギャップを埋める仕事、コンサルティング業務に携わりたいと改めて思ったのです。

アクセンチュアの二つの理念に触れ、是非この会社に入りたい、と思いました。一つは、「革新を実現へ」です。アイデアは持っているだけではなく、実現させてこそ意味があります。アイデアを見つけて、それを実現させることがクライアントの「夢」を実現したり、経営の収益を改善していくことになります。

もう一つは、森会長がおっしゃる「コンサルティングを通して、日本の国の地位向上を図る」です。サミットやAPUでの学生生活の中で、このままでは日本は生き残れないのでは、という思いに駆られました。国際学生は、概して組織運営に長けています。そのような彼らと日本は競争をしていき、勝ち残らないことには、日本という国を守っていけない「危機感」を感じました。

私は、2000年4月の入学式で「将来、コンサルティング会社で知的サービスの提供に携わりたい」と抱負を述べました。この言葉を実現することができた背景には、APUの環境、キャリア・オフィスの精神的なサポート、そして友人達の存在があります。これからは、自分が後輩達のサポートをする活動に携わりたいと思います。



# 2004年度就職活動へ向けての取り組み

APUは2000年4月の開学以来、国際舞台で通用する真の実力を備えた人材を育てるために、従来の日本の大学教育の枠を超えたカリキュラムを導入して参りました。なかでも、開学と同時にスタートさせた「キャリア・デベロップメント・プログラム」は、入学直後から学生一人ひとりの希望進路を把握し、その目標にあわせた個別指導・進路相談を進め、また、多種多様なアプローチで学生の職業意識を高めることに役立っております。2004年度は学生がさらにこのプログラム利用し、自信をもって社会に羽ばたいてほしいと願っております。

## 2004年度の キャリア・デベロップ メント・プログラム

### ステップ1 春・秋入学時に実施 1年生～「4年間をどう過ごすのか」

入学の目的に沿った将来の進路や学びたい学問領域について、「進路意識調査アンケート」を入学直後から各セメスター毎に実施しています。入学当初段階から目標に向けて取り組む課題を明確にし、目的意識を持った学生生活が送れるようサポートします。

### ステップ2 1年生～3年生「将来像のモデル提示」

国際的な企業・団体のトップ、および経済界・財界の第一線でご活躍されている皆さんをお招きして『トップ講演会』『業界別連続講座』『CD（キャリア・デベロップメント）講座』など、講演会や正課授業での就職対策講座を多数実施していきます。大学での学びが社会でどのように役立つのか、また社会に出る前に身につけなければならない能力はどのようなものなのか、学生達に丁寧に説明し、就職活動の目的を明確にします。

### ステップ3 1年生～3年生「インターンシップへの参加」

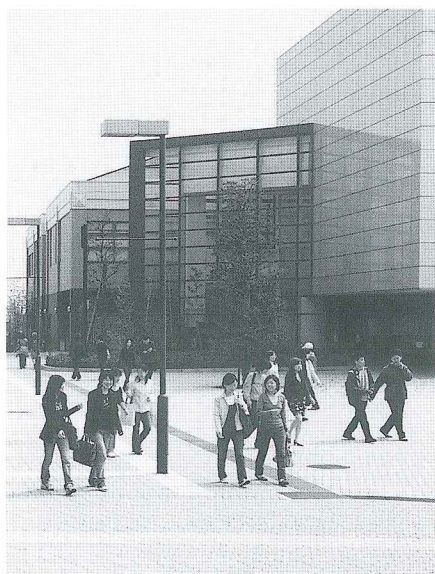
国内外の企業・団体・行政機関などを対象に実務研修を受け入れていただくよう支援しています。受入先企業・団体とは『インターンシップ受入協定』を結び、積極的な派遣を推進すると共に、徹底した事前教育・事後教育『ビジネス理解Ⅰ・Ⅱ』を正課で実施しています。現場の就業体験から、仕事の厳しさや難しさに直面し、今の自分の強みと弱みを理解させることにより、確かな職業観を育みます。毎年、約240名を超える学生が参加し、多くの学びを得ています。また、本学ではインターンシップへの参加学生が、その企業・団体にご採用いただくケースが大変多くなってきております。

### ステップ4 3年生～4年生「就職活動説明会、企業懇談会」

3年生の春をむかえ、本格的な就職活動をスタートさせる学生達に『キャリア・ガイダンス』『企業懇談会』『学生就職プロジェクト』などを実施し、具体的なアドバイスや行動計画への指導を行います。また、SPI試験・面接試験対策や個別相談など、これまでに身につけてきた資格・能力を参考にしながら面談形式による個別支援も行っています。

企業・団体の皆様には、APUで展開している先進的な教育システムをご覧ください。企画（キャンパス視察・授業見学）や、学生達と懇談いただく企画（企業懇談会）を設けてまいります。APUキャンパスに是非一度、お越しください。

近年、企業の採用活動スケジュールは早期化・通年化の傾向にあり、3年生から就職指導は本格化しているのが現実です。APUでは、企業・業界の実態を把握し、採用活動のスタート時期に合わせて、2万社を超える企業情報・求人情報・先輩の就職活動記録





などのデータベース化を行い「APU就職支援WEBシステム」で公開しています。自宅からでも、全国の立命館学園キャンパス（衣笠、BKC、東京・大阪オフィス）からでも、即座に就職情報を入手し、相談できる環境・体制を整備しています。

2003年度の第1期卒業生は、これらのシステムやプログラムをフルに活用して、真剣な姿勢で就職活動に取り組んでまいりました。また、アドバイザー・コミッティ企業の皆様方を始め、各界の多くの方々からご支援を賜り、第1期生の就職実績も順調に推移してきております。今、APUは「本当にAPUで学んで良かった」と考える多くの学生を日本の社会のみならず世界へ送り出すことで、大きく飛躍しようとしています。

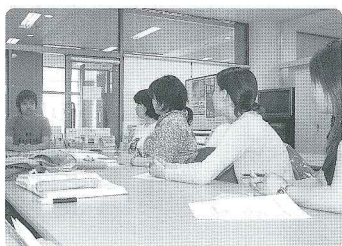
## ●学生の就職に関する活動

### 国内学生就職支援プロジェクト

自分のキャリア・プランを考えながら  
働くことの意義を知る

#### 国内学生就職支援プロジェクトとは…

就職をめぐるさまざまな問題を学生自身が調査・研究するグループです。正課プログラムではありませんが、学年をこえた集団の力で、問題を発見、分析、そしてその解決方法を探っています。自らのキャリア・プランを考えるうえでも貴重な活動です。



まずは、「就職活動を探る」をテーマに研究をしています。

プロジェクトの第2回の会合では、既に内定を獲得している4回生から就職活動体験を聞き、大学生に求められる能力とは何かを考えるきっかけとなりました。

また、先輩の具体的な活動状況から、現在の就職活動が早期化・長期化している事実を知り驚きましたが、今から始められる、エントリーシートの書き方から、自分の長所・短所の分析の方法などを学び、自己分析をそれぞれがはじめました。

今後は、企業訪問や、先輩訪問を計画し、実際に社会で働くことの意義を考えていきたいと思っています。

最終的には、この活動を通じて得たものを、メンバーだけでなくAPUの全学生に発信できれば、この活動は成功といえると考えています。

### APU COMPASS

自分の「キャリア」や「生き方」を考え、  
それに向けて実践していく姿勢を学ぶ

#### APU COMPASSとは…

学生の個々の「キャリア」を考える場として、それぞれの生き方を確立され、様々な方面で活躍されている方々をAPUに招待し、キャリアデザインセミナーを開催してきました。

先日、昨年12月に引き続き、「ソーシャル・アントレプレナー」をテーマに、二回目のキャリアデザイン・セミナーを開催しました。昨年の一回目では、宮城治男様（NPO法人ETIC代表理事）、能嶋裕介様（NPO法人Brain Humanity代表）を招待、今回の二回目では、引き続き宮城治男様と開沢真一郎様（NGO団体NICE代表）をお招きし、講演会、ワークショップを開催しました。APU COMPASSは、21世紀の先駆者として活躍されている方々をお招きし、こうしたセミナーを開催することで、「自分のキャリア」、「自分の生き方」を考えることのできる「場」を作っていきたいと考えています。



今後の活動としては、学生新聞などをおして、さまざまな分野で活躍されている方々に関する情報を発信していく予定です。さらに、三回目のセミナー開催を計画しています。



Report

# 名誉博士号を贈呈

## HONORARY DOCTORAL DEGREE PRESENTATION

この度APUは「立命館アジア太平洋大学名誉学位規定」を制定し、その第1号として平岩外四先生、平松守彦先生、新井正明先生、樋口廣太郎先生に、立命館アジア太平洋大学名誉博士号を贈呈しました。

名誉博士号は、APUの開学と発展に尽力いただき、同時に、広く学術・文化の振興に大きな貢献を果たされた方々に、その功績を称えて贈呈するものです。

今回名誉博士号を授与された4氏の略歴は、以下のとおりです。

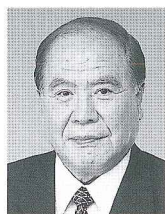


平岩 外四 先生

生年月日：大正3年(1914年)8月31日  
出身地：愛知県

●略歴

昭和14年(1939年) 東京帝国大学法学部卒業  
昭和14年(1939年) 東京電灯株式会社(現 東京電力株式会社)入社  
昭和51年(1976年) 東京電力株式会社 代表取締役社長  
昭和59年(1984年) 同社 代表取締役会長  
平成 2年(1990年) 社団法人経済団体連合会 会長  
平成 4年(1992年) 社団法人日本工業倶楽部 理事長  
平成 6年(1994年) 社団法人経済団体連合会 名誉会長  
平成12年(2000年) 宮内庁参与  
平成14年(2002年) 社団法人日本経済団体連合会 名誉会長



平松 守彦 先生

生年月日：大正13年(1924年)3月12日  
出身地：大分県

●略歴

昭和24年(1949年) 東京大学法学部卒業  
昭和24年(1949年) 商工省(現 経済産業省)入省  
昭和39年(1964年) 通商産業省 産業公営、石油計画、電子政策の各課長  
昭和49年(1974年) 国土庁(現 国土交通省)長官官房審議官  
昭和50年(1975年) 大分県副知事  
昭和54年(1979年) 大分県知事当選就任  
平成15年(2003年) 大分県知事を6期連続24年務めたのち退任。



新井 正明 先生

生年月日：大正元年(1912年)12月1日  
出身地：群馬県

●略歴

昭和 9年(1934年) 東京帝国大学法学部卒業  
昭和12年(1937年) 住友生命保険株式会社(現 住友生命保険相互会社)入社  
昭和41年(1966年) 住友生命保険相互会社 代表取締役社長  
昭和54年(1979年) 同社 代表取締役会長  
昭和61年(1986年) 同社 代表取締役相談役名誉会長  
平成 6年(1994年) 同社 名誉会長  
昭和47年(1972年)および昭和52年(1977年)  
社会法人関西同友会代表幹事  
昭和48年(1973年) 社団法人生命保険協会会長  
平成 4年(1992年) 学校法人立命館理事・評議員



樋口 廣太郎 先生

生年月日：大正15年(1926年)1月25日  
出身地：京都府

●略歴

昭和24年(1949年) 京都大学経済学部卒業  
昭和24年(1949年) 株式会社住友銀行(現 株式会社三井住友銀行)入行  
昭和57年(1982年) 株式会社住友銀行 代表取締役副頭取  
昭和61年(1986年) アサヒビール株式会社 代表取締役社長  
平成 4年(1992年) 同社 代表取締役会長  
平成11年(1999年) 同社取締役相談役名誉会長  
平成 7年(1995年) 社団法人経済団体連合会副会長  
平成10年(1998年) 経済戦略会議議長  
平成11年(1999年) 内閣特別顧問  
平成11年(1999年) 財団法人新国立劇場運営財団理事長  
平成13年(2001年) 東京都現代美術館館長



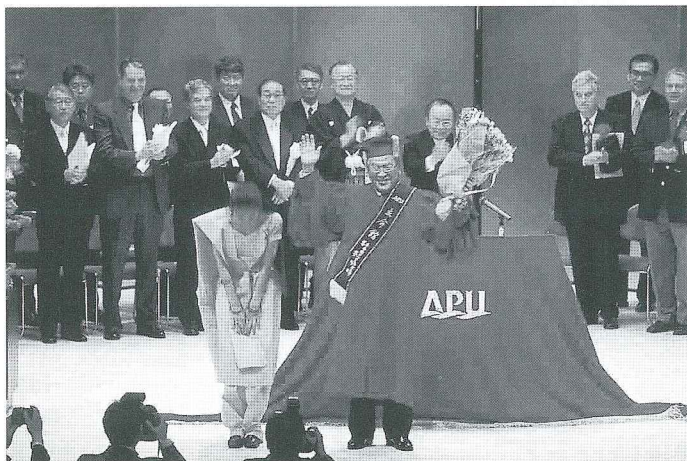
## [名誉博士号贈呈式を開催]

4月2日、入学式終了後APUミレニウムホールにて、来賓者、多くの新生や父母、大学関係者が見守る中、第1回の名誉博士号贈呈式が執り行われました。

坂本和一学長より平岩先生、平松先生、新井先生、樋口先生の経歴をご紹介した後、ご臨席頂いた平松先生に名誉博士号の贈呈を行いました。坂本学長より学位記が読み上げられ、あわせて「立命館アジア太平洋大学名誉博士」と刺繍が入った肩章

を平松先生にお渡ししました。

アカデミック・ガウン、学位帽そして肩章に身を包んだ平松先生からは、「名誉博士号は、大学の運営に協力したり、日頃学生のお世話をしている県民サポーターを代表して頂いたと思っています」とのご挨拶があり、民族衣装を着た学生代表より平松先生にお祝いの花束が贈られました。



## *APU's First Honorary Doctoral Degree Presentation Ceremony*





Report

# 1 回生演習 「アジア太平洋地域理解」

## FIRST-YEAR SEMINAR : THE CONTEMPORARY ASIA PACIFIC

APUでは、現在世界66カ国・地域から来た国際学生が国内学生と共に学んでいます。この環境は異文化間コミュニケーションをはかる絶好のチャンスです。

この環境を生かし、多文化社会で活躍できる人材を育てるための導入教育として、この科目を開講しています。



### 授業の進め方

授業は、特定のテーマについての講義が行われ、翌週にそのテーマにもとづいたワークショップが行われるという形態で進められます。

講義は、学生が内容を完全に理解できるように、同じテーマで英語クラスと日本語クラスに分けて行われます。毎回ゲストスピーカーを迎えて、「日本での市民生活」や「多文化共生社会をめざして」といったテーマで講義が行われます。

一方、ワークショップは、国際学生と国内学生の混合クラスで、上回生のTA（ティーチング・アシスタント）の運営で進められます。ディスカッションは英語と日本語を交えて行われますが、その際には、相手に理解してもらうためにやさしい表現や身振り・手振りを使用した意見交換や、共同プロジェクトを通じて異文化間コミュニケーション能力をつけていくことを目

標としています。

授業期間の半ばには、「異文化間コミュニケーション」をメインテーマとするプレゼンテーションコンテストを行いました。コンテストでは予選を勝ち抜いた各クラスの代表グループが、個々に選んだ具体的なテーマにもとづいて他クラスの前でプレゼンテーションを行いました。この取り組みを通じて、学生たちは互いの理解を深めながら協力して一つのことを創りあげていくという貴重な経験をしました。

### TAの役割

ワークショップにおいて重要な役割を担っているのがTAです。すでに異文化間の摩擦とそれを乗り越えるための努力をしてきた上回生が、自分の経験を踏まえながら、担当する学生たち（各クラス約25名）のディスカッションをリードしていきます。1回生はTAのアドバイスを聞きながら、コミュニケーションのはかり方やプレゼンテーションの仕方を学んでいきます。TAは「小さな国際社会」とも言うべき多様な学生によって構成されるワークショップを運営することにより、自らも異文化間コミュニケーション能力をつけ、人間的にも大きく成長していくことが期待されています。



## Voices of TA

TAY Seow Boon

APS 4回生  
シンガポール



ワークショップで、1回生のディスカッションをサポートするTAとして、コミュニケーションの取り方・プレゼンテーションの効果的な方法などのアドバイスをしています。一方、課題の捕らえ方については多角的な視点、そして相手の意見を受け入れる姿勢の大切さを伝えていくよう、心掛けています。

私は英語基準で入学していますが、日本語と英語の両方を使ってワークショップを行うことはある意味大変です。しかし、TAの役割は通訳ではなく1回生の「学習ガイド」です。授業では、逆に皆さんに日本語ではどういう表現をするかを聞いて、1回生が相互に学ぶ姿勢をもって、授業がスムーズに進むようにしています。

APUの正課・課外で経験したことを、TAとして出来る限り1回生の皆さんに伝えていきたいと思っています。



# 大学院開設

## ESTABLISHMENT OF THE GRADUATE SCHOOL

2003年4月に、アジア太平洋地域が直面する問題を実践的に解決できる政策志向の人材養成を目指し、またアジア太平洋地域における産業育成と国際協力のための人材育成の推進と、日本政府による発展途上国開発援助としての人材養成支援の一端を積極的に担う目的で、立命館アジア太平洋大学大学院が開設されました。

APU大学院では、年2回（4月・9月）入学時期があり、英語のみによる授業が行われる他、修士課程は1年または1年半、博士課程は2年で「早期修了」が可能など、様々な特徴があります。

APUは開学以来、地域社会の振興と国際化のために貢献してきました。APU大学院も同じく、アジア太平洋地域との積極的な交流を進め「アジア太平洋学」という新しい教育研究領域の構築と発展に資すると共に、この分野の研究拠点となることを目指しています。「RCAPS」（立命館アジア太平洋研究センター）が、国内外の研究組織と協力して「アジア太平洋学」研究を進めています。

### 大学院の構成

研究科名	課程名	専攻名	コース名	学位名
アジア太平洋研究科	修士課程	アジア太平洋学	アジア太平洋学	修士（アジア太平洋学）
		国際協力政策	開発経済	修士（国際協力政策）
			国際行政	
			環境管理	
経営管理研究科	修士課程	経営管理	観光管理	修士（経営管理）MBA
			アジア太平洋学	
			ファイナンス	
	博士課程	アジア太平洋学	国際ビジネスとマーケティング イノベーションと技術経営	博士（アジア太平洋学）

### アジア太平洋研究科（APS）

# APS



研究科長  
福井 捷朗  
日本

本研究科は、二つの専攻からなります。一つは国際協力政策専攻で、修士課程だけです。ここでは、必ずしも研究者養成だけではなく、4つの分野における高度職業人養成を主眼とします。もう一つはアジア太平洋学専攻で、修士と博士課程にまたがり、アジア太平洋学と呼ばれるにふさわしい学問領域の開拓を主眼としています。ともに学際的な教育と研究を特徴とします。学際的領域における教育では、つねに個別学問分野の基礎的訓練と学際性との両立が課題となりますが、多分野にまたがる経験豊富な国際的教員によって、その目的を達成しようとしています。

### 経営管理研究科（MBA）

# MBA



研究科長  
Ronald J. Patten  
アメリカ

立命館アジア太平洋大学のカリキュラムは、欧米およびアジアの経営管理スタイルを合わせ持っています。一つだけの正しい経営方式というものはないと我々が信じているからこそ、このようなプログラムを作りました。結果的に独特なAPUスタイルMBAができました。

多くの授業でケースメソッドを使用していますが、学生はこの対話形式の教育方法を体験することで、アジア太平洋地域の個別事例に対応できる専門的職業人・経営幹部を養成します。



# Topics on APU

## 秋篠宮殿下・妃殿下ご来学

5月12日（月）、「第20回全国都市緑化おおいたフェア」にご臨席のため、秋篠宮殿下・妃殿下が大分県にお越しになり、APUを視察されました。

本部棟前では、大勢の学生・教職員が両殿下をお迎えしました。両殿下はご到着後、本部棟4階の応接室で川本理事長、坂本学長から大学の概要説明を受けられ、広瀬大分県知事、浜田別府市長とともに、歓談されました。

懇談後、両殿下は坂本学長の先導でメディア・センターに移動され、アドバイザリー・コミッティ・ライブラリーについての説明を受けられました。立命館アジア太平洋大学の発展のため協力をいただくアドバイザリー・コミッティの制度について、大変興味をお持ちいただき、アドバイザリー・コミッティ・ライブラリーを熱心にご覧いただきました。

さらに教室棟内の茶室「和心庵」（裏千家ご寄贈）で、アジア太平洋地域理解科目の茶道授業をご覧になりました。両殿下は国内学生と国際学生と一緒に日本文化を学んでいる姿に大変興味を持たれたようでした。

言語ラウンジでは、十数人の学生達一人ひとりと親しく歓談されました。





## 平松先生に感謝するAPU教職員の集い

本学アドバイザー・コミッティの代表世話人で、APU名誉博士である平松守彦先生が、今春6期連続24年間勤めた大分県知事を退任されました。この機会に、先生のこれまでの学園、とりわけAPUへの多大なご貢献に教職員全体が感謝の意を表すために、「平松先生に感謝するAPU教職員の集い」が、5月7日、APUのコンベンションホールで開催されました。集いには、大南正瑛前立命館総長（現京都橘女子大学長）をはじめ、長田総長、川本理事長、坂本学長以下APUの教職員約150名が出席しました。

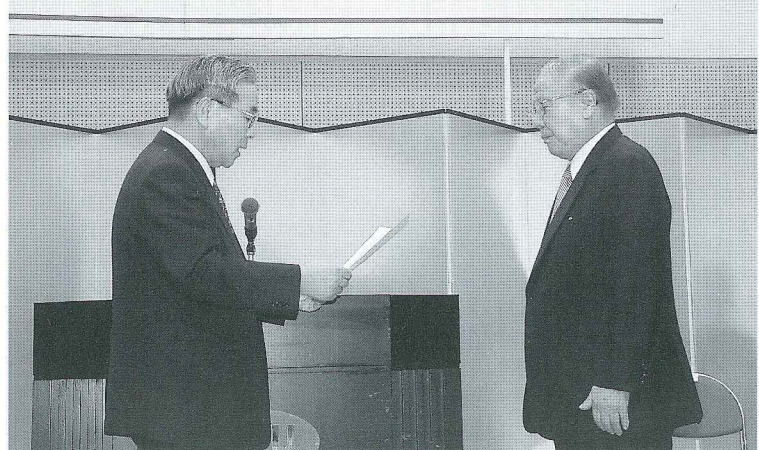
集いは、「写真でみる平松先生とAPU」（スライドショー）を皮切りに始まり、川本理事長、長田総長、坂本理事長、さらには学生を代表してAPM3回生のWu Kun Lungさんから、挨拶や感謝の言葉が語られました。それらの中で、平松先生の人柄をおうかがいできるエピソードや、APU設立に向けた平松先生の方ならぬ熱意とご尽力が紹介され、

出席者は感銘深く聞き入りました。また平松先生は、ご挨拶の中で、知事在任中にもっとも力を入れて取り組んだのは人材の育成であり、「アジアとの地域間交流を推進していく人材を育てる大学を大分につくりたかった」と、APU設立への想いを語られると共に、「アジアの要に位置する九州で、これから一県民として地域間の外交に力を尽くしたい」と、今後もアジア太平洋地域の発展のため尽力される決意を述べられました。

集いはその後学生企画としてAPUエイサー団チャンプルーによる沖縄エイサーの演舞が披露され、平松先生ともども大いに盛りあがりました。見送る教職員一人ひとりに声をかけ、握手をしながら退場された先生から、教職員と学生は先生のAPUへの熱い想いを感じ取り、あらためて先生への感謝の意を強くしました。



## 生に感謝するAPU教職員の集い





# Topics on APU

## 卒業式・校友会結成式

2003年3月1日、APUから初めての卒業生が誕生しました。

今回卒業したのは、早期卒業プログラムを修了した9名で、いずれも優秀な成績で学部での学修を3年間で終えた学生です。9名はAPUから巣立ち、それぞれが希望した就職、大学院進学に向けて歩みを始めました。

卒業式には7名の学生が参加しました。式では長田総長、坂本学長が祝辞を述べました。坂本学長は彼らが入学してきた際の入学式の挨拶でも引用した、ピーター・ドラッカーの言葉「未来を予測する最良の方法は、自ら未来を創り出すことである」を改めて彼らに送り、彼らを祝福すると共に、今後の活躍への期待を述べました。

会場となったコンベンションホールには、遠方から参列された卒業生のご家族や、先輩の旅立ちを祝う多数の在校生が出席しましたが、その前で坂本学長から卒業生一人一人に卒業証書・学位記が手渡されました。

卒業生を代表して挨拶に立ったリー・エンゴーさんは、

「異文化共生の中で有意義な学生生活を送ることが出来たこの3年間は、私の人生の誇りです。これから未来へ歩んでいきます」と今後の決意をのべると共に、学生生活を支えてくれた多くの関係者、とくにアドバイザー・コミッティの皆様に対する深い感謝の意を表明しました。

9名の卒業生は卒業後、4名が大学院進学、4名が就職、1名がベンチャービジネスを起こすなど、それぞれの道を歩んでいきます。さらに1年後の2004年3月には、約650名の学生が社会に巣立つこととなり、いよいよAPU卒業生の本格的な活躍が期待されています。



卒業式に引き続き、APU校友会の結成式が行われました。結成式では岡田 操立命館大学大分県校友会副会長より祝辞を頂きました。さらに第1代会長となった竹本慎也さんより、結成に至る経過が報告され、同時に事務局長にチャン・ウェイさん、監事にリム・ケニーさんが就任したこと



が報告されました。わずか9名での結成・出発となりましたが、今後数多くの校友が誕生し、全世界にネットワークを持つ日本では前例のない大学校友会となっていくことが期待されます。



## 立命館アジア太平洋大学 国・地域別の学生数

(2003年4月1日付)

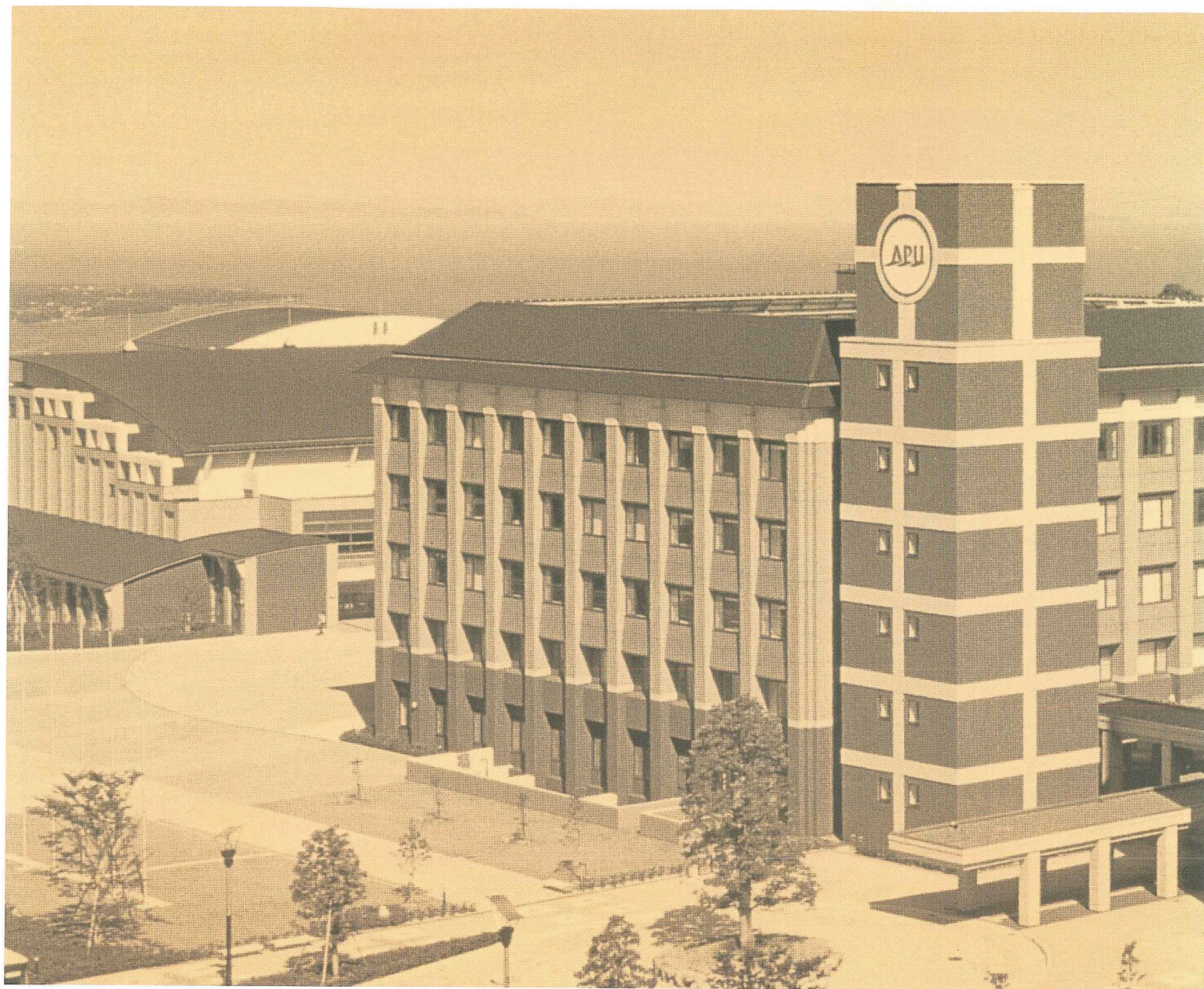
	国・地域	学部	大学院	学部・大学院合計
アジア	韓国	379		379
	中国	237	2	239
	台湾	119		119
	ベトナム	92		92
	インドネシア	85		85
	タイ	61		61
	インド	43	1	44
	スリランカ	39		39
	マレーシア	29	2	31
	フィリピン	18	2	20
	ネパール	15		15
	ラオス	14		14
	パキスタン	14		14
	バングラデシュ	13		13
	ミャンマー	12	1	13
	シンガポール	12		12
	モンゴル	10		10
	カンボジア	7		7
	ウズベキスタン	3		3
	イラン	2		2
	ヨルダン	2		2
	グルジア	1		1
	シリア	1		1
	トルコ	1		1
	小 計	1209	8	1217
アフリカ	ケニア	17		17
	ガーナ	11		11
	ウガンダ	9		9
	ナイジェリア	7		7
	エチオピア	6		6
	カメルーン	3		3
	マリ	3		3
	マラウイ	2		2
	スーダン	2		2
	ザンビア	2		2
	ジンバブエ	2		2
	コモロ	1		1
	コートジボワール	1		1
	ジブチ	1		1
	マダガスカル	1		1
	モロッコ	1		1
	小 計	69	0	69

	国・地域	学部	大学院	学部・大学院合計
北・南アメリカ	アメリカ合衆国	25		25
	カナダ	10		10
	ボリビア	2		2
	エクアドル	2		2
	ペルー	1		1
	小 計	40	0	40
オセアニア	オーストラリア	12		12
	バブアニューギニア	5		5
	ニュージーランド	4		4
	サモア	4	1	5
	パラオ	1		1
	トンガ	1	1	2
	小 計	27	2	29
ヨーロッパ	リトアニア	12		12
	ブルガリア	7		7
	ハンガリー	7		7
	イギリス	6		6
	ロシア連邦	4		4
	エストニア	3		3
	フィンランド	3		3
	ルーマニア	3		3
	ポーランド	2	2	4
	ウクライナ	2		2
	クロアチア	1		1
	チェコ	1		1
	ドイツ	1		1
	オランダ	1		1
	スロバキア	1		1
	小 計	54	2	56
国際学生（留学生）合計		1399	12	1411
国内学生合計		2128	5	2133
APU学生総計		3527	17	3544

注) 国際学生とは、在留資格が「留学」である学生をいう。  
国内学生には、在留資格が「留学」ではない在日外国人を含む。







**APU** 立命館アジア太平洋大学

〒874-8577 大分県別府市十文字原1-1 TEL.0977-78-1114 <http://www.apu.ac.jp/>